



ながさき へいわきねんぞう ひだりて なに あらわ 長崎の平和祈念像の左手は何を表しているの

げんばく ひがひ ながさきし 原爆の被害にあった長崎市

1945(昭和20)年8月9日、長崎市に落とされた原子爆弾は、いっしゅんのうちに7万5000人の命をうばい、爆発の中心地から2キロメートル以内は、すべてが焼け落ちてしまいました。これを記念するために、「原子爆弾落下中心地の塔」がたてられ、平和公園がつくられました。平和公園の中には、国際文化会館、平和祈念像、平和の泉などがもうけられています。

ちじょう えいえん へいわ ねが いみ 地上に永遠なる平和を願うという意味

へいわきねんぞうは、「へいわ ながさき」のローガンのもとに、かね あつ しょうわ
平和祈念像は、「平和は長崎から」のローガンのもとに、お金が集められ、1955(昭和30)年に完成しました。

この像は、神の愛と、仏の慈悲を象徴する青銅製の男の神様です。高さが9.7メートル、重さが30トンあり、約4メートルの台座にのっています。

この像を作った北村西望さんは、「天を指さした右手は原爆の脅威を示し、水平にのびした左手は地上に永遠なる平和を願い、軽く閉じた眼はぎせい者のめい福をいのっている」のだと説明しています。

(監修・青木 国夫)

